

< 参考資料 指導と評価の年間計画及び評価規準の作成の手引きと実例 >

1 「指導と評価の年間計画」について

「指導と評価の一体化」の視点に立った年間計画は、次の特色があります。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、授業内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに止どまったが、この計画は、各授業ごとの学習活動のポイント、観点別の評価のポイントも含めて記述してある。

評価の方法を記述し、評価から評定への道筋が明確でありかつ説得力を持つように記述してある。

内容的には、下記の2の「評価規準を含んだ指導と評価の計画（単元ごとの指導と評価の計画）」の全単元について、その概要を記述したものです。

2 「評価規準を含んだ指導と評価の計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準を含んだ指導と評価の計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」のことであり、次の要素が示されていなければなりません。

科目全体の「評価の観点及び趣旨」を示されている。

「単元ごとの評価規準」及び単元の「各授業時間ごと主な内容」が示されている。

「各授業時間ごとの主な内容」には、「主な学習内容」と「主な学習活動・評価の観点」及び「評価の方法・指導」が示されている。

「主な学習活動・評価の観点」は、上記の「指導と評価の年間計画」の「主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」に反映されていなければならない。

「主な学習活動・評価の観点」は、上記の「単元ごとの評価規準」の4観点を具体化したものでなければならない。

単元ごとの評価規準（例）

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
A	B	C	D

各授業時間ごとの主な内容

1 項目名 (授業名)			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	・学習内容の主な項目を記載	・上記Aの具体的な内容【関】 ・上記Bの具体的な内容【思】 評価の観点は次のように略記 【関心・意欲・態度】 = 【関】 【思考・判断】 = 【思】 【技能・表現】 = 【技】 【知識・理解】 = 【知】	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載
第2時		・上記Cの具体的な内容【技】 ・上記Dの具体的な内容【知】	・評価の具体的な方法及び指導のポイントを記載

3 「評価規準の作成の手引き」

評価規準については、次の内容構成で作成することになります。

以下に記述されている、「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」は、平成14年度において、「評価規準、評価方法等の研究開発と行い参考となる指針を示すことにより、目標に準拠した評価の客観性を、信頼性を高める」ために文部科学省が研究指定校において行っている研究であり、その中間報告は平成14年9月に発表されています。中間報告は、平成14年9月の高校特殊校長会を通して各学校へ配布しています。

- 1科目の目標 ...学習指導要領に示す当該科目の目標
- 2科目の評価の観点及びその趣旨
...新学習指導要領及び指導要録改善通知に示された当該教科の評価の観点及びその趣旨をもとに作成
具体的には、「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」に記載されたもの

- 1大項目ごとの目標 ...学習指導要領の「内容」の(1)～(?)の大項目ごとの目標
- 2大項目ごとの評価規準
...学習指導要領の「内容」の(1)～(?)の大項目ごとの評価規準。
「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」に記載されたもの

留意点...各項目・単元の構成によっては、またはは省略する場合もある

- 1内容のまとめりごとの目標
...学習指導要領の内容のまとめりごとの目標
- 2内容のまとめりごとの評価規準
...内容のまとめりごとに4観点別に示した評価規準
「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」に記載されたもの

- 1単元の目標 ...実際の使用教科書等にもとづいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標
学習指導要領の項目ごとのねらいを基本に記載
- 2単元の評価規準
...単元ごとに4観点別に示した評価規準
「内容のまとめりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの
「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」に「内容のまとめりごと」の「評価規準の具体例」として記載されたものを基本に記載

各授業時間ごとの具体の評価規準と方法

- ...各授業時間ごとに、単元ごとの評価規準に基づく具体的な評価規準とその方法を示したもの

留意点...「内容のまとめり」はあくまで学習指導要領に示された内容に基づいており、使用する教科書等に基づく単元とは一致していない。次ページに<参考資料>として、その一つの例を示した。

< 参考資料 > 「新学習指導要領」と「教科書」の構成（内容の順序等）の不一致の例

学習指導要領の項目と、使用する教科書等に基づいて実施する授業の単元とは、どの会社の教科書を用いる場合でも、ある程度の不一致が生じます。

「指導と評価の年間計画」は「目的に準拠した評価規準」を示し、かつ当然であるが現実の授業の進行の元となるものでなければなりません。

したがって、計画の構成及び記載の方法については各学校で工夫が必要です。

以下は、「日本史A」の場合の例です。

学習指導要領の内容（項目）		教科書項目（社版日本史A）		
(1)歴史と生活		< 歴史と生活 >		
(2)近代日本の形成と19世紀の世界	ア国際環境の変化と幕藩体制	序章 近代の前提 1 維新以前の日本 2 近代の萌芽 3 対外関係の変化		
	イ明治維新と近代国家の形成	第1章 開国と維新 1 東アジア国際環境の変化と開国 2 政治秩序の崩壊 3 明治維新と革新政策 4 対外関係の変革と内乱の終結		
	ウ国際関係の推移と近代産業の成立	第2章 近代国家の形成と発展 1 立憲政治をめざして 2 憲法の制定と議会の開設 3 東アジアの国際環境と条約改正問題 4 清国との戦い 5 藩閥・政党の対立と協力 6 ロシアとの戦い 7 日露戦後の国際関係と日本		
		第3章 産業化の推進と国民生活の変化 1 産業革命の進展 2 資本主義の確立とその特色 3 社会問題の発生 4 国民文化の形成 5 国民生活の変化		
	(3)近代日本の歩みと国際関係	ア政党政治の展開と大衆文化の形成	第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー 1 第一次世界大戦と日本の外交 2 デモクラシーの高まりと政党 3 国際協調と軍縮の進展 4 政党政治の時代 5 大戦中から戦後の経済と社会 6 都市化と大衆文化	
		イ近代産業の発展と国民生活	第5章 第二次世界大戦と日本 1 昭和恐慌 2 協調外交のゆきづまり 3 満州事変から国際的孤立へ 4 軍部の政治的台頭 5 中国との戦い 6 第二次世界大戦と世界新秩序 7 太平洋戦争 8 日本の敗北	
		ウ两大戦をめぐる国際情勢と日本	第6章 占領下の日本 1 占領政策の展開 2 戦後民主主義の定着 3 政治・経済の再建 4 独立の回復	
		ア・イ・ウの内容は教科書の章ごとの内容としては区分できない	第7章 日本の自立と経済成長 1 55年体制の成立 2 安保体制下の日本 3 高度経済成長の光と影 4 経済大国	
		(4)第二次世界大戦後の日本と世界	ア戦後政治の動向と国際社会	第8章 現代世界と日本 1 冷戦の終り 2 国内政治の再編成 3 アジア・太平洋と日本
			イ経済の発展と国民生活	
			ウ現代の日本と世界	

具体例 1 指導と評価の年間計画 日本史 A (第 2 学年用)

目標	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
【学習指導要領】	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関心と課題意識を持つことができるよう、各単元の冒頭に家庭学習等による調査を実施する。
到達目標に向けての具体的な取り組み	近現代史の学習から過去の歴史と現代との結びつきを理解し、課題を見つけ、それについて考察ができるように、各授業ごとに思考・判断の力を問うテーマを盛り込み、また、第 6 章においては、個別の課題追究学習を実施しレポートを提出させる。
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸資料の分析を通して事象を追究する方法を身に付けることができるよう、表・資料・写真等を考察して、自分の考えを表現できるような場面を多く設定する。 ・ 近現代史の概要について、特に現代の諸課題と結びつけて基本的な知識を身に付け理解できるように、適宜テーマを設定する。

月	単元名	使用教科書項目 (出版日本史 A)	時	主な学習活動 (指導内容) と評価のポイント	評価方法
4 月	歴史と生活	日本史 A の授業について (はじめに)	1	・ 日本史 A 学習の意味	アンケート実施
5 月	序章 近代の前提	1 維新以前の日本	1	・ 江戸時代の特徴 (武士道・身分制度など) と近代の萌芽を理解する ・ 鎖国体制の意味を理解する ・ 自己評価を実施	行動観察 プリント確認 質問紙
		2 近代の萌芽	1		
5 月	第 1 章 開国と維新	3 対外関係の変化 自己評価	1	・ 近現代史における日米関係について関心を持つ ・ 列強による植民地化の危機と明治維新の要因について理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		1 東アジア国際環境の変化と開国	1		
6 月	第 2 章 近代国家の形成と発展	2 政治秩序の崩壊	1	・ 江戸幕府の滅亡の原因を考察し理解する ・ 明治政府が目指した支配体制について理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		3 明治維新と革新政策	2		
6 月	第 3 章 産業化の推進と国民生活の変化	4 対外関係の変革と内乱の終結	1	・ 自由民権運動の本質とその結末を理解し、大日本帝国の政治的特色を理解する ・ 日本の大陸進出の意図及びこの時代の東アジア情勢を広い視野から理解し、二つの戦争と植民地支配の意味を理解する	グループ別学習 自己評価表の記入 授業評価表の記入
		1 立憲政治をめざして	1		
7 月	第 4 章 第一次世界大戦と大正デモクラシー	2 憲法の制定と議会の開設	2	・ 自由民権運動の本質とその結末を理解し、大日本帝国の政治的特色を理解する ・ 日本の大陸進出の意図及びこの時代の東アジア情勢を広い視野から理解し、二つの戦争と植民地支配の意味を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		3 東アジアの国際環境と条約改正問題	1		
7 月	第 5 章 第二次世界大戦と日本	4 清国との戦い	1	・ 韓国併合とその後の植民地支配から在日朝鮮人問題など現代日本の課題について考察する ・ 2 ヶ月間の学習の状況について自己評価する	小テスト
		5 藩閥・政党の対立と協力	1		
10 月	第 6 章 占領下の日本	6 ロシアとの戦い	2	・ 授業評価を実施 ・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		前期中間考査	1		
10 月	第 7 章 日本の自立と経済成長	7 日露戦後の国際関係と日本	1	・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する ・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		1 産業革命の進展	1		
11 月	第 8 章 現代世界と日本	2 資本主義の確立とその特色	1	・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する ・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		3 社会問題の発生	1		
12 月	第 9 章 戦後と現代	4 国民文化の形成	1	・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する ・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		5 国民生活の変化	1		
12 月	第 10 章 戦後と現代	6 都市化と大衆文化	1	・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する ・ 日本の大化 = 脱亜入欧の思想を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		1 第一次世界大戦と日本の外交	1		
1 月	第 11 章 戦後と現代	2 デモクラシーの高まりと政党	2	・ 「大正デモクラシー」という用語から、大正・昭和期の時代へのイメージを持つ ・ 国際協調・軍縮の時代の外交関係とそれを可能とした国際情勢を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		3 国際協調と軍縮の進展	1		
1 月	第 12 章 戦後と現代	4 政党政治の時代	2	・ 政党政治の本質と限界について理解し、民主政治の理想について考察する ・ デパート・洋装・洋食など今日の大衆文化の原点となった大正昭和初期の文化を理解する	行動観察 プリント確認 質問紙
		前期期末考査	1		
1 月	第 13 章 戦後と現代	5 中国との戦い	1	・ 各地の戦争の爪痕について関心を持ち、戦争を経験した世代に対する理解を深め、平和に対する思いを強くする ・ 昭和恐慌の原因を考察する	行動観察 プリント確認 質問紙
		6 第二次世界大戦と世界新秩序	1		
2 月	第 14 章 戦後と現代	7 太平洋戦争	2	・ 満州事変から国際的孤立へ向かう日本の進路についてその原因について、多面的に考察する ・ 太平洋戦争の実情を理解し、日本近代史の中での重みや現代とのつながりについて考察する	小テスト
		8 日本の敗北	1		
2 月	第 15 章 戦後と現代	歴史と生活 主題 2 日本人の信仰と正月	2	・ 正月の行事の中にある日本の信仰について理解する ・ 正月の行事・風習などの中から課題追究学習を実施する	行動観察 プリント確認 質問紙
		後期中間考査	1		
2 月	第 16 章 戦後と現代	テスト返却 現代の日本アンケート	1	・ 現代日本の諸課題についてアンケートにより関心を高める ・ アメリカ軍の占領が戦後の歴史においてどのような意味を持つかについて、関心を高め考察する	アンケート
		1 占領政策の展開	1		
3 月	第 17 章 戦後と現代	2 戦後民主主義の定着	1	・ 民主化と占領政策の転換及び戦後の国際情勢について理解する ・ 現代の政治課題のいくつかと戦後政治との関連を考察する	行動観察 プリント確認 質問紙
		3 政治・経済の再建	1		
3 月	第 18 章 戦後と現代	4 独立の回復	1	・ 戦後時代を長く規定した 55 年体制について理解する ・ 高度成長の光と影について理解し、経済大国の実相を考察する	行動観察 プリント確認
		1 55 年体制の成立	1		
3 月	第 19 章 戦後と現代	2 安保体制下の日本	1	・ 高度成長の光と影について理解し、経済大国の実相を考察する ・ 石油危機以後の日本の状況と国際経済における日本の位置について理解する	小テスト
		3 高度経済成長の光と影	2		
3 月	第 20 章 戦後と現代	4 経済大国	1	・ 現代の諸課題についてアンケートを結果をもとに関心を高め、課題追究の態度を持つ ・ 各自の持つ課題について調査研究を行う	行動観察 課題調査 課題発表 作品提出
		1 冷戦の終り	2		
3 月	第 21 章 戦後と現代	2 国内政治の再編成	1	・ 冷戦後の世界の変化、55 年体制の崩壊、バブルとその後の日本経済について理解し、現代日本の課題について考察する ・ 課題について発表を行う	行動観察 課題調査 課題発表 作品提出
		3 アジア・太平洋と日本	1		
3 月	第 22 章 戦後と現代	課題発表	2	・ 1 年間の学習により何が学べたかについて総括する ・ 日本史 A 学習の意味は何であったかについて総括する	年間の反省 授業評価表の記入
		日本史 A の授業を終えて 授業評価	1		
			1	後期期末考査	
			1	合計時間数	70

具体例 2 日本史 A 評価規準を含んだ指導と評価の計画

(単元ごとの指導と評価の計画)

1 科目の目標

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 科目の評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民として自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的対象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

以下の評価規準等の記述は、あくまで1例です

(2) 近代日本の形成と19世紀の世界

目標 (学習指導要領の内容)

開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程を、国際環境と関連付けて理解させる。

「近代日本の形成と19世紀の世界」の評価規準 (内容のまとめりごとの評価規準)

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
開国以後、明治維新を経て近代日本が形成された過程に対する関心と現代に通じる課題意識を高め、多様な学習方法を通して意欲的に追究している。	開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	開国以後、明治維新を経て近代日本が形成された過程に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することや、博物館や文化遺産などを通して、歴史的対象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	開国以後、明治維新を経て近代日本が急速に形成された過程について基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

序章 近代の前提

単元の目標（学習指導要領の内容）

産業、学問・思想、教育における近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出に着目して、幕藩体制動揺期の内外情勢について理解させる。

単元ごとの評価規準（「近代日本の形成と19世紀の世界」の評価規準の具体例を基本に作成）

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
幕藩体制動揺期の内外の情勢に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	幕藩体制動揺期の内外の情勢から課題を見だし、産業、学問・思想、教育における近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	幕藩体制動揺期の内外の情勢に関する絵画、統計・グラフ、地図などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	幕藩体制動揺期の内外の情勢についての基本的な事項を欧米諸国のアジア進出と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

各授業時間ごとの主な内容

1 維新以前の日本代			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	江戸時代の基本的な支配構造 身分制度と封建的な思想	封建制度の本質を理解する。 【知】 ・幕藩体制の基本的性格 ・分権的支配体制の諸相 身分制とは何か、封建的思想とは何かについて、男尊女卑・家制度・部落差別等の知識と結びつけながら、意見を発表し理解を深める。 【思】【関】【技】	グループ毎に話し合い、意見をまとめる。

2 近代の萌芽			
第2時間目	経済の発達と武士支配との矛盾 庶民文化の勃興 多様な学問の発達と合理性の芽生え	「大坂は天下の台所」の意味と経済の発達の状況の理解。 【知】 武士道の発想（禁欲・貴穀賤金・忠・家）とは何かについて、これまでの知識から全体像を考える。「忠臣蔵」がTVで高視聴率を得る要因は何か。 【思】 蘭学と国学を中心に、合理性と国民性の両面から近代への萌芽を理解。 【知】	クイズ形式の質問紙 新渡戸稲造「武士道」等を資料として利用

3 対外関係の変化			
第3時間目	鎖国体制とは何か 西洋列強の接近と幕府の外交政策	鎖国の意味の理解。 【知】 世界の動きと西洋列強の接近の必然性の理解。 【知】 幕府の対応の中に見られる支配の限界とは何かを考察する。 【思】 ・蛮社の獄、異国船打払令発令などを通して、幕府支配の限界を考える。	意見発表 この単元の総括的な位置づけの本授業において、以前の2時間の知識等を利用して、幕府支配の本質に迫らせる。

第1章 開国と維新

単元の目標（学習指導要領の内容を単元の構成に合わせて一部修正）

文明の開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸制度の改革に伴う社会・文化の変化に着目して、開国から江戸幕府の崩壊・新政府の樹立・諸改革の実施・内乱の終結までの我が国の近代国家形成の動きについて理解させる。

単元のごとの評価規準（「近代日本の形成と19世紀の世界」の評価規準の具体例を基本に作成）

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きから課題を見だし、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府の諸制度の改革に伴う社会・文化の変化と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きに関する文献、新聞、絵画、写真、統計・グラフ、地図などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	開国、明治維新から内乱の終結までの近代国家形成の動きについての基本的な事柄を国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

各授業時間ごとの主な内容

1 東アジア国際環境の変化と開国			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1時間目	アヘン戦争とアメリカの登場 和親条約・通商条約の締結と開国の影響	2枚の星条旗の意味から近代史における日米関係に関心を持つ。【関】 アヘン戦争の影響とアメリカの発展「炎上する清国のジャンク」についての解説文を書く。【技】 黒船に兵糧米を運ぶ力士の図から、ペリーの砲艦外交と日本植民地化の危機を考察する。【思】 幕府が打倒されていく理由を推察する。【思】	意見発表 絵を見ながら意見を書かせる。質問紙記入。 意見発表 意見発表

2 政治秩序の崩壊			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法
第2時間目	井伊直弼の政治の挫折と幕府権力の動揺 公武合体と尊王攘夷運動の展開 討幕運動と戊辰戦争	将軍継嗣問題を通して、井伊直弼ら幕府守旧派が維持しようとした政治路線を理解する。【知】 観念的な尊王攘夷論から現実的な武力倒幕路線への変化の意味を理解する。【知】 大政奉還から王政復古クーデターに至る政治情勢を、場面場面での推理を働かせながら理解する。【思】	南紀派と一橋派の違いについて発表させる。 薩摩・長州の尊王攘夷派がなぜ現実的な路線へ転換できたかを理解させる。 将軍慶喜と薩長派の主導権争いの意味を、場面を区切った発問と質問紙による解答で追究する。

3 明治維新と革新政策			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第3 時間 目	政治体制の中央集権化 (版籍奉還・廃藩置県)	幕藩体制の本質 = 分権的支配体制が西洋列強の進出に対抗するために不都合であること、中央集権的支配体制の構築が不可欠であることを理解させる。【知】	意見発表
	身分制の廃止と「国民」の創出(徴兵制と秩禄処分)	諸制度の改革の中でどの階級の人々に負担がかかっていったかを考察し、明治新政府とは何かを多面的に理解させる。【思】	プリント記入提出
第4 時間 目	経済制度の改革	地租改正について多面的に考察し、戦後の農地改革が行われなければならなかったことと結びつけてその意味を考える。【思】	質問紙記入提出
	文明開化	文明開化の諸相について幅広く理解する。【関】	意見発表

4 対外関係の変革と内乱の終結			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第5 時間 目	岩倉使節団の派遣と日朝修好条規の締結	岩倉使節団派遣(その後の条約改正)・日朝修好条規締結(その後の大陸進出)における明治政府の外交の2面性の意味を考察し、その状況を理解する。【知】	なぜ二面性を持つのか理由を意見発表
	氏族の不満と西南戦争	西南戦争を考察し、武士階級にとって明治維新は何であったか考える。【思】	プリント提出

具体例3 日本史学習指導案例

教科(科目)	日本史 A	単元名	開国と維新
本時主題	東アジアの国際環境の変化と開国		(1時間目 / 5時間)
本時の目標	<p>ミズーリ艦上の「二つの国旗」の逸話から、近代史におけるアメリカに対する2度の敗北(開国・不平等条約締結とポツダム宣言受諾)を理解し、近代史の大きな構造の理解を通して、歴史そのものへの関心・意欲高め、積極的な態度を持つ。 【関心・意欲・態度】</p> <p>「炎上する清国帆船」から、アヘン戦争における清国の敗北の意味、この時代における、ヨーロッパによる日本を含めた東アジア全体の「植民地化の危機」の状況を読みとる。 【技能・表現】</p> <p>ペリーの来航と不平等条約の締結が、日本にとっての「植民地化の危機への対応」の始まりであることを「黒船に兵糧を運ぶ力士」の絵等についての思考を通して理解する。 【思考・判断】</p> <p>ペリー来航 = 外圧が倒幕にいたる大きな要因であることを理解し、倒幕への過程を推察する。 【思考・判断】</p>		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<p>・太平洋戦争直後の降伏調印式から近代史の構造を考える、理解させる。</p> <p>10分(経過時間)</p> <p>・東アジア地域におけるアヘン戦争の敗北の意味を考え、理解させる。</p> <p>20分</p> <p>・ペリー来航の状況とその後の和親条約・通商条約の内容について、その意味と考え、理解させる。</p> <p>35分</p> <p>・ペリー来航、開国の影響を理解する。</p> <p>45分</p> <p>・ペリー来航、開国がこの後どのような展開を見せるか考える。</p> <p>50分</p>	<p>日本とアメリカとの関係の重要性の理解 太平洋戦争の敗北と日米関係の理解</p> <p>Question 1 降伏調印式のみズーリ艦上に飾られた2枚のアメリカ国旗とは何か。その意味は。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国旗1は太平洋戦争開戦時のホワイトハウスの国旗 ・国旗2は和親条約締結時のペリー乗船軍艦の国旗 アメリカにとってはいわば「2度目の勝利」 <p>アヘン戦争の概要の理解</p> <p>Question 2 広州湾で「炎上する清国帆船」の絵から理解できることは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米列強による東アジア植民地化の危機を、絵から読み取り表現する。 ・清国敗北に関する幕府の対応を理解(天保の改革の挫折、保守派の抵抗による海防策の遅延) <p>アメリカの使節が来航した状況を理解 和親条約(片務的最恵国待遇) 通商条約(関税協定制・領事裁判権の許容)の不平等性を説明</p> <p>Question 3 「黒船に兵糧を運ぶ力士」の絵は何を意味するか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ペリーの軍事力を背景とした強硬な要求」に対して屈服した屈辱感への裏返しとして、兵糧を運ぶ力士という設定がなされたことを理解。江戸幕府の対応如何によっては、日本植民地化の危機が存在したことを理解する。 <p>開国の影響から次の2点から理解し、倒幕・明治維新への流れを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府独裁の政治体制の動揺(調停の介入) ・貿易の開始が社会生活に与えた影響 社会不安 <p>Question 4 なぜ江戸幕府は倒されるのか(倒れるのか)本時の学習から考えなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容から、倒幕の要因を推察。次時への問題提起。 	<p>Q1...国旗を見せながら、現代アメリカ国旗との違い等に注目させて興味関心を引きつつ、説明。正解を誘導。 【関】</p> <p>評価方法 発問、挙手、発表 国旗2については、この場に飾られた理由を考える。答えから、近代史の大きな構造(対欧米外交、一流国の仲間入り)などに理解を進める。</p> <p>Q2については、プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる。机間指導により確認。 【技】</p> <p>評価方法 プリントの事後提出で確認</p> <p>不平等条項については、発問により理解度を確認しながら徹底する。</p> <p>Q3については、質問紙への記入回収により、評価。意見発表により理解を徹底。 【思】</p> <p>評価方法 質問紙記入</p> <p>経済・政治のポイントを確認する。</p> <p>本時の学習内容の確認と次時以降の問題提起を行う。 評価方法 【思】 プリント記入、意見発表</p>	

具体例4 「評価から評定へ」の具体例

ここでは、評価から評定への総括の方法について1例を示します。

具体例は、この他に、国語・公民・農業の各教科においても作成されています。

補助簿1及び補助簿2を使い、単元(題材)ごとの評価と定期考査を組み合わせることで評定(前期分)を決める方法です。

補助簿1 (場面ごとの評価の記載する補助簿)の説明

単元(題材)ごとの学習など、あらかじめ「指導と評価の計画」によって実施を予定していた評価の場面ごとの評価記録である。

略記号は、それぞれ、【関】=関心・意欲・態度、【思】=思考・判断、【技】=技能・表現、【知】=知識・理解を意味する。

【関】・【思】・【技】については、A(充分満足できる状況)・B(おおむね満足できる状況)・C(努力を要する状況)で評価している。

【知】については20点満点の小テストの点数をそのまま示している。

各評価項目の設定は、地歴・公民科の科目をイメージして設定してある。

前期評価の補助簿1 (評価場面ごとの評価の記録と観点別の集計)

番号	氏名	【関】				【思】				【技】				【知】												
		第1時間目アンケート	1章	2章	3章	4章	4章	発言・机間指導等	序章	序章	1章	1章	2章	2章	3章	3章	4章	4章	発言・机間指導等	小テスト	小テスト	小テスト				
		ア	ア	ア	ア	ア	観	ア	質	質	質	質	質	質	質	質	質	質	観	テ	テ	テ				
1		A	A	B	B	B	A	A	C	B	B	A	A	B	B	B	B	B	A	A	A	B	B	15	20	18
2		B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	8	12	15

註1 評価項目最下部の記号 **ア** はプリント提出 **質** は質問紙 **ア** はアンケート **観** は行動観察 **テ** はテスト
 註2 「発言・机間指導」等の欄は、この補助簿とは別に、出席確認簿などに、授業中の優れた発表などを評価・記載して、前期・後期ごとにABCで示している。

補助簿2 (補助簿1から前期評定を算出するための補助簿)

補助簿1の各観点別の評価を点数化。

各学校毎(または教務内規等)に決められている換算表により、10段階・5段階評定に換算

前期評価の補助簿2

番号	氏名	【関】	【思】	【技】	【知】	定期考査			合計	評定
		換算点数	換算点数	換算点数	換算点数	中間	期末	換算点数		
		80	80	80	60	100	100	200	評定判定点数 ÷ 5	10段階
1		63	64	62	53	85	75	160	80	9
2		50	59	53	35	65	55	120	63	7

・補助簿1の【関】【思】【技】をA=3 B=2 C=1として点数化。満点は以下のとおり。
 【関】8項目=24点 【思】10項目=30点
 【技】9項目=27点 【知】小テスト=60点
 ・これを左表の80:80:80:60に換算。
 例 【関】は、個人合計点数×80÷24
 ・定期考査については、単に知識理解を確認する問題だけではなく、技能・表現、思考・判断を問う問題を含めることとし、但し、全体として、考査独自で点数を集計。
 ・この結果、左表の換算点数の合計は、500点となる。評定判定点数はこれを5で割って100点としている。

・評定判定点数は、各学校の規定に従い評定へ換算。

例 100~90=10 89~80=9 79~70=8 69~60=7 以下略

< 参考資料の提供 >

岐阜県総合教育センターのウェブサイトの資料

「指導と評価の年間計画」・「評価規準」等の作成に関する参考資料は、岐阜県総合教育センターのウェブサイトからダウンロードすることができます。

岐阜県総合教育センターのトップページ (URL <http://www.gifu-net.ed.jp/gec/>)

【教科教育等】のコーナーの中にある、「指導計画と評価(高校)」から入ってください。

参考資料は次の構成となっています。

但し、教科によって、その記述の順序・形式等は異なっていますので、教科の先頭ページの目次・説明等で確認してください。

< 共通の資料 >

「評価から評定を算出する方法」の具体例

観点別の評価・定期考査の得点等をどのような過程で評定とするかを示したもの

< 各教科別の資料 >

「指導と評価の年間計画」の具体例

月別の指導と評価の計画、観点別の評価の規準(要点)、考査等の評価手段を併記したもの

「単元(題材)ごとの指導と評価の計画」の具体例

単元(題材)ごとの目標・評価規準・指導と評価の計画案・各授業ごとの評価規準と評価の方法(学習指導案等)の具体例を示したもの

「評価規準の作成の手引き」

現在進められている「高等学校における評価規準、評価方法等の研究開発について」をもとに、どのようにして評価規準を作成するかを説明したもの

また、「学校生活等に関する意識調査」・「学力の調査」の結果は、同じくトップページの【教科教育等】「学力の分析と向上施策」からお入りください。

(URL <http://www.gifu-net.ed.jp/ssd/sien/gakuryoku/index.htm>)

文部科学省のウェブサイトの資料

教育課程審議会の答申及び文部科学省の通知は下記のウェブサイトからダウンロードすることができます。

平成12年12月の教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/kyouiku/toushin/001211.htm

平成13年4月「小学校児童指導要録、中学校生徒指導要録、高等学校生徒指導要録、中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校、聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録、中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善について」(通知)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/13/04/010425.htm